

取組名	地域と連携した防災避難訓練		
特徴	○ 通常の避難訓練に加え、近隣の幼稚園児を誘導する避難訓練の実施。 ○ あらゆる状況に対応するための、避難所運営ゲームの実施。		
学校名	下松市立末武中学校	期日	平成30年11月27日(火)

1 ねらい

- 安全に迅速に避難できる習慣を身に付ける。
- 災害・危機状況発生時の対応法を理解する。
- 災害発生時に、中学生としてできる活動に携わる姿勢を身に付ける。

2 概要

(1) 津波を想定した避難訓練

- ①津波警報後に、最上階に避難する。
- ②鋼鉄幼稚園の園児を中学生が誘導（園児125名に対し、中学3年生125名が迎えに行く）し、園児を連れて、最上階に避難する。
※誘導する上で怪我のないよう、園児の歩くペースに合わせてたり、階段の昇降時に気を付けたりするなどの配慮を行った。



(2) 講話

下松市総務課防災危機管理室職員を招へいし、災害に備える方法や、非常時の対処について話を聞いた。

テレビのデータ放送、スマートフォンのアプリが情報収集に有効であることや、被災地域内での直接連絡は通じにくいので、他地域で情報を知らせ合う共通の知人を決めておくことよいことなど、実際に災害に遭遇した場合に役立つ内容であった。



(3) HUG（避難所運営ゲーム）

下松市総務課防災危機管理室職員の主導で、代表生徒14名、教職員7名、コミュニティ・スクール推進委員6名、計27名を6グループに分け、末武中学校が避難所になった場合のシミュレーションをゲーム形式で行った。身体の不自由な方、妊婦の方や犬を連れてきた被災者が訪れた場合など、様々な状況を想定して、避難所をどのように運営していくか、話し合いを深めた。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・災害発生時の対応を全校生徒に周知することができた。
- ・災害発生時に社会に貢献することを、生徒に意識付ける一助となった。

(2) 課題

- ・訓練開始時から、一部の生徒が幼稚園児を誘導避難する間、残った生徒は長時間、待機しなくてはならない状況であった。
- ・中学校から見て幼稚園は南側に位置する。津波の想定であったにもかかわらず、海側に向かって中学生が園児を迎えに行くことは、生徒の安全管理の面で課題が残る。